

卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	大阪大学	整理番号	1812
プログラム名称	生命医科学の社会実装を推進する卓越人材の涵養		
プログラム責任者	熊ノ郷 淳	プログラムコーディネーター	森井 英一

卓越大学院プログラム委員会における評価

<p>〔総括評価〕</p> <p>S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。</p>
<p>〔コメント〕</p> <p>卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、学長の強いリーダーシップの下、学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム（DWAA）の概念を核として「知と知の融合」（学際融合の推進）「知の探究」（専門性の探究）「社会と知の統合」（社会課題の解決）の3つの要素をバランス良くカリキュラムに反映させ、高度な「知のプロフェッショナル」を育成する事に成功した。特に、知財戦略、市場調査、規制科学などを積極的にカリキュラムに組み込むなどして、人文社会科学系の融合研究への実質的な取組などを当初の想定を超えて進めた点は高く評価できる。グローバルビレッジでの交流、日本・タイ感染症共同研究センターを通じた研修そしてグローニンゲン大学などとのコラボレーションなどによって、学生の社会課題解決の意識が向上している点も評価に値する。</p> <p>修了者の成長については、社会実装力と研究実践力双方において詳細で具体的なルーブリック評価によって学生の質向上が担保されている点は評価できる。実際、KPIも達成されているうえ、日本学術振興会育志賞受賞者が本プログラムから2名輩出されていることから修了者の成長の様子が見て取れる。国内外の大学や研究機関、企業との連携関係が充実しており、医歯薬系で新たなロールモデルが創出されているだけでなく、学内外研究者とのネットワーク作りにも成功している点も評価に値する。</p> <p>キャリアパスの構築については、修了者が企業、アカデミア、病院医師などへとバランス良くキャリアパスを見出している点は卓越大学院の精神に叶っており、評価できる。インターンシップの参加人数が少ない点でキャリアパス構築に向けて改善の余地があるが、中長期インターンシップ参加への繰り返しの呼びかけや、ワンデーインターンシップなどの工夫も見られ、今後の一層の取組が期待される。</p> <p>大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、DWAAの基本理念に基づき分野融合的・横断的なプログラムが実践されており、学際大学院機構の設置などを契機として、これが全学展開される形になっている点は評価に値する。理工情報系、人文社会科学系ともにオナープログラムが創設され、部局を越えた横断的取組がなされるなど、随所に工夫が見られる。さらには、大学院改革が学部レベルにまで浸透し始めるなど、まさに全学的な改革になっている点は当初の予測を超えており、大いに評価できる。</p>